



職員課 主幹兼副課長
小原英男が話を伺いました!!

Q1：これまでの経歴を教えてください。

新採用で赴任した須賀川市立仁井田小学校をはじめ、教諭として4校で勤務しました。特に白河市立信夫第一小学校勤務のうち、長期研究員として2年間教育センターで算数科の研究を行いました。1年間の育児休業を経て、算数科のコアティーチャーとして近隣3校の5年生の算数科の授業を行いました。

令和7年4月に新任教頭として滑津小学校に着任し、現在2年目となります。

Q2：ミドルリーダーの経験はありますか。

研修主任を3校で務めました。児童の実態から研修計画を作成したり、授業について先生方と話をしたりしながら一緒に取り組んでいくうちに「子どもたちがこんな風に変わってきたよ。」「授業が楽しいと子どもたちが言ってくれた。」と先生方から報告を受けると、とてもうれしくなりました。「まずはやってみよう」と熱心な先生方ばかりで、とても楽しかったです。

中島村立滑津小学校教頭

加藤 彰子 さん

加藤教頭先生は、令和7年4月より滑津小学校教頭として勤務をされております。

Q3：昇任考査を受験したきっかけを教えてください。

尊敬する先生から、目の前の学級の子どもたちを幸せにするだけでなく、もっと広い目で福島県の子どもたちを幸せをするためには、管理職になり先生方を育てることが大事だと声をかけられ、管理職になることを意識するようになりました。また、昇任考査を受けたときに勤務していた学校の校長先生からの勧めもありました。校長先生から、今は、教頭先生の働き方改革も進んでいるから、必ずしも教頭先生が学校の施錠開錠をしなくて大丈夫だし、環境が人を育てるから大丈夫と背中を押していただきました。また、母からも困ったときは手伝うよと話してもらったこともあり、受験してみようと思いました。

Q4：女性管理職のロールモデルはいらっしゃいましたか。

教諭として最後に勤務した学校の教頭先生です。学校や家庭のことも含めて相談にのっていただき、学級のことで困ったことがあった時は、笑顔で「どうしたの?」と声をかけていただき親身になって相談にのっていただきました。また、子どもの発熱でお休みをいただいた時は、「申し訳なくないよ。先生のかわりはいるけど、母親は先生一人しかいないよ。」と話してくださり、安心して子どもに付き添うことができました。同じように安心できる職員室、安心して先生方に相談してもらえるような教頭先生になりたいと思いました。

Q5：現在、ワークライフバランスで工夫している点がありますか。

教頭として着任するにあたり、校長先生に家庭の状況等を相談しました。校長先生から、「教頭先生は18時には帰っていいよ」と言っていただき、昨年度は校長先生や教務主任の先生にも施錠を分担していただいていた。その代わり、夫の協力を得て、朝は家を早くでて学校で仕事をしています。

また、「子育て世代が校長先生になっても学校運営ができるようなシステムを作っていかななくてはならない」と現在の校長先生がいろいろと考えてくださっています。

巡視についても分担するなど周りの先生方にも助けられています。



～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和13年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で31%、校長で20%とすることを目標としています。

Q6：教頭職のやりがいは何ですか。

学級担任は、学級の子どもたちだけの関わりでしたが、今は、全校児童とかかわりをもつことができたり、滑津小学校の子どもたちのために、今何ができるのかを先生方と一緒に考えることができるのが楽しいです。また、本校には若い年代の先生も多いので、相談があれば、「大丈夫だよ。」と声をかけ、「教頭先生に相談してよかったです。」と言われると力になれてよかったと思えてうれしくなります。

昨年度育児休業から復帰された先生が、『自分の子どもも大事だけど、仕事もしなければならない』など、家庭と仕事の間で揺れ動いてたときに、同じく子育て中の私の姿を見て、「自分も頑張ろうと思った。」と話していただいた時に、自分が子育て世代で管理職をやるのが、ほかの先生方のロールモデルになっているのかなと感じました。

Q7：教頭職の大変なことは何ですか。

新任教頭として着任したときは、初めての業務に右も左もわからず、大変でした。早く帰ることで、逆に校長先生や他の先生方の負担になっているのかもしれないと思い、悩むことも校長先生にもたびたび相談をしてきました。校長先生からは、「教頭先生のスタイルが今後、女性でも子育て世代でも、教頭先生になろうとする先生を増やすためにも、いま悩んでいることが役に立ってくるから、誰が学校を施設するか等、気にすることはないよ。絶対にこうでなければいけない。ということもないし、仕事が滞っている訳でもないから、教頭先生のスタイルで大丈夫だよ。」とおっしゃってください、安心して業務にあたっています。

Q8：女性教職員の皆さんにメッセージをお願いします。

子育てをしていると様々なことがあります。私も子育て関係で休みをとることが申し訳ない、先生方に迷惑をかけてしまうと思っていました。でも今は、いろいろな制度も活用したり、先生方の協力もいただきながらになりますが、家庭を大事にしながら楽しく仕事ができたらいいなと思っています。楽しみながら、家庭と仕事の両立を図っていきましょう！！



加藤 彰子さん、ありがとうございます。

今後も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えていきたいです。よろしくお願いします。

イクメンを紹介します！！ ～中島村立滑津小学校 須藤 諒先生～

今回、子育てと仕事を両立しながら、クラスの子どもたちと向き合っている男性の先生にもお話を聞きました。

Q1：お子さまが生まれるときに育児参加のための休暇や育児休業の取得は検討しましたか？

妻の出産の際に、配偶者出産休暇を利用し、育児参加のための休暇は春休み中に2日間利用しました。夏季休業中の育児休業取得を検討しています。

Q2：家族で子育てや家事を行うにあたり、分担されていることはありますか。

妻は認定こども園で勤務しており、シフトによって勤務時間が不規則なため、妻のシフトにあわせて柔軟に家事を分担しています。お互いの好きなことを生かして分担しており、夕食を作ることが比較的多いです。



Q3：現在、子育てと仕事を両立されるにあたり、工夫している点は何ですか。

仕事や家事で疲れたときには、素直に伝え合うようにしています。その場合は、どちらかが休息する時間を設け、どちらかが子どもと遊んだり家事をしたりしています。お互いにため込まないのが一番だと思います。



Q4：学級の子どもたちへの見方に変化はありましたか。

学級の子どもたちへの見方は大きく変わりました。我が子を大切に、愛情を注いで一生懸命育てている保護者の方の気持ちが分かるようになりました。だからこそ、一人一人を大切にしようと思っています。我が子にかけられるように、学級の子どもたちへも声をかけています。

Q5：子育て中の男性教職員のみなさんへ一言お願いします。

私は、子育てに積極的に関わりながら仕事と両立されている先輩の先生方を尊敬しています。管理職の先生方や先輩の先生方に相談するなど、一人で抱え込まず、みんなで支え合っていくことが大切だと思います。子育ても仕事も、子どもたちの成長を感じながら楽しんで頑張りましょう！！

福島県教育委員会では、仕事と家庭の両立に向けて、令和13年度までに、男性教職員の配偶者出産休暇や育児参加のための休暇、育児休業取得率100%を目指し、取組の推進図っております。